

平成 24 年度 第 7 回札幌市入札・契約等審議委員会の審議概要

1 開催日時

平成 25 年 3 月 15 日（金）10：00～11：30

2 開催場所

札幌市役所 14 階 1 号会議室

3 出席者

(1) 委員

蟹江委員長、岡田委員、小山委員、山下委員、山本委員

(2) 札幌市職員

財政局契約管理担当局長、財政局管財部長、財政局工事管理室長、財政局契約管理課長、財政局工事契約担当課長、財政局技術管理課長、財政局建築設備検査担当課長、病院局経営企画課長 他 9 名

4 次第

- (1) 開会
- (2) 財政局契約管理担当局長あいさつ
- (3) 委員長あいさつ
- (4) 報告事項
- (5) 平成 24 年度の意見書について
- (6) その他
- (7) 閉会

5 審議概要

(1) 報告事項

○ 平成 25 年度における工事等に関する入札・契約制度の改正について

【岡田委員】 総合評価の改正について、若手技術者に関する評価項目が地域貢献型のみの適用としている理由は何か。

【札幌市】 一つには地元雇用といった地域貢献の観点による。簡易型、技術評価型に関しては、経験の有無が大きな要素であることから、適用外としている。また、若手技術者が配置された場合にはベテラン技術者の追加配置も検討したが、企業の人的負担を鑑み、求めないこととした。

【小山委員】 昨今、公務員志向が再度強まっており、優秀な若手技術者が市役所等に転職してしまう状況にある。

【札幌市】 全国的にそういう傾向があるものと聞く。

【蟹江委員長】 業界全体の問題であり、若い人が建設業に魅力を感じないのはあまり健全な状況とは思えない。発注者も含めて改善すべきことである。どのくらい効果を発揮するかは不明だが、評価対象の年齢を引き下げることにも有り得ると考える。

【札幌市】 建設業の魅力を業界、役所を含めてうまくPRしていく必要がある。実際にもものをつくったり、災害復旧するのは業者である。現場をPRすることで、魅力を感じ現場に入って頑張りたいと思う人が出てくるかもしれない。

【蟹江委員長】 入札の制度として、個人の能力や努力評価がもう少しされてもよい。制度上難しいかもしれないが、若手技術者に対する評価を入れることで、励みになると思う。

【山本委員】 市内企業の施工計画に関し、95%又は60%の評価とした理由は何か。

【札幌市】 実績から割合を設定した。市内企業が元請となった場合には、通常の工事で90%から100%を示していたが、設備等の工事では、市外企業が入ってくることがあるため、50%から60%ぐらいの実績が見られた。実態を踏まえ、2段階評価としたものである。

【小山委員】 加点方法はどのようなものか。型式や工事の難易度により重みがつくか。

【札幌市】 一律である。各等級内での競争になり、重みはつけない。

【蟹江委員長】 地域要件の細分化については、過大な競争を抑制する観点の試みだと思う。方法論として、エリアを細分化する方法と等級を細分化する方法が考えられるが、今回、エリア分けを選択した理由は何か。また、今後の考え方は如何か。

【札幌市】 今回は土木工種に適用するものであるが、既に4等級に区分されており、これ以上の細分化は困難であるため、エリア分けを選択した。エリア分けの一番の問題は、エリア内の業者数に対する発注量のバランスであり、これを考慮したものになっている。どちらを選択するかは、個々の状況により判断していきたい。

(2) 平成24年度の意見書について

【蟹江委員長】 今年度の意見書案としては、「適切な競争の促進」、「くじ引き対策」、「公共工事における品質確保の促進」の3点である。

【小山委員】 優良な業者を工事成績で評価しているが、工事成績は評価する者によって差が出ないか。また、評価する者は役所の人間でよいのか。

【札幌市】 成績は3名の職員がそれぞれ評価することになっており、評価項目のチェックの数に応じて点数を算出する手法であることから、恣意性が働くとは考えにくい。また、工事の評価は施工プロセスに関するものも含むため、市民が評価するのは難しいと考える。出来上がった施設の概要や使い勝手といったものは計画の話であり、現在は、市民や学識経験者の方々とともに計画を策定している状況にある。

【蟹江委員長】 制度改正の効果や多角的な分析の結果はどのように公表しているか。

【札幌市】 本委員会や関係団体との意見交換の場でお示ししている。

【蟹江委員長】 2点目の「くじ引き対策」について、他都市ではいろいろな取り組みがあると聞く。事例を研究し、参考にしながら、よいアイデアは取り入れていきたいというのが趣旨である。

【山本委員】 3点目の「公共工事における品質確保の促進」について、価格競争が限界にきているということであれば、もう少しめり張りをつけて実施してもよいのではないか。

【札幌市】 総合評価や成績重視の発注量は大きく増減していない。将来的に割合を増やしていくという考えもあると思うが、成績上位者に受注が偏ってしまう。状況を注視しながらシェアの拡大については検討していく必要があるものと考えている。

【蟹江委員長】 長期的な戦略として、成績重視を増やしていくことを発注者側からアナウンスすることで、企業の仕事の仕方や、経営戦略等に対する一定の効果が見込まれる。健全な競争の結果、優良な企業が残ることは歓迎すべきことであり、発信の仕方によってよりよい業界にする工夫もあるかもしれない。

【小山委員】 成績重視型の2年型について、一部の工事に関しては成績点が平均を下回っている。成績重視型は企業の工事成績で評価しているが、受注したとしても、優秀な技術者が配置されるとは限らない。本来、評価点というのは技術者個人に付与されるべきである。

【蟹江委員長】 企業評価に対して個人の能力評価を重くすることで、技術者の能力向上のモチベーションに繋がるのではないかと思う。長期的には、成績重視を増やしたり、個人の能力評価を重くしていくといった方向性を考えているというメッセージを含めることについて、検討したい。

【小山委員】 総合評価に関し、固定化の解消の方策はどのようなものか。

【札幌市】 優良な企業が常に高評価を受けることで、他の企業の参加意欲が低下する結果、固定化に繋がっていると考えられる。差のつきやすい項目に関し、1件受注した場合には2件目以降は評価しないとすることで、参加者を増やしていく意図である。

【小山委員】 優良な企業は受注機会を失うことになりかねない。

【札幌市】 優良な企業が受注できなくなり、工事成績が下がっていった場合は、新たな課題になってしまう。期待していることは、応札者が増加し、品質が確保されることである。結果を注視していきたい。

【岡田委員】 意見書とは異なるが、今年度前半のAEDの苦情に関する審議に関し、市側と業界側で情報交換できるような体制が整えられればトラブルは未然に防げるものと思う。

【蟹江委員長】 苦情に関する審議は終了したが、それに対するフォローが必要であると考えている。

(3) その他

意見書について、文言修正のうえ提出することを決定した。